



# さとがき

<http://www.satogaki-e.kofu-ymn.ed.jp/> 里垣小ホームページ

里垣小学校だより  
平成30年1月12日  
甲府市立里垣小学校  
校長 柏木 精一

## 今年もよろしくお願ひ致します

「すべては子ども  
のために」

新年、明けましておめでとうございます。

平成も30年を迎え、歳月の流れの速さを感じております。3学期が始まり、子ども達の元気な姿に再び出会えました。冬休みは半月程でしたが、始業式に参加する子ども達の様子を見ると、ちょっぴり大人っぽくなったように感じました。

3学期は短い期間ですが、学年のまとめ(その学年で培うべき力を身に付けること)をしっかりと行い、次の学年の準備をする大切な学期です。日々の成長は中々気づきにくいものですが、毎日の努力が自分を成長させてくれているはずで

す。インフルエンザ等が流行する時期でもありますが、健康に留意して、計画的に日々を過ごせるように支援して参ります。

保護者や地域の皆様には、引き続き学校教育へのご理解とご協力をお願い致します。

## 給食週間～食を考える機会に～

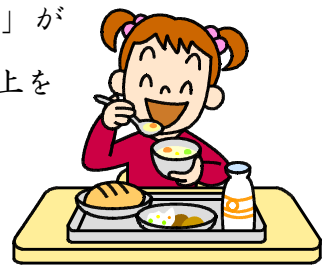
学校給食の始まりは、明治22年、山形県の私立忠愛小学校で出された「おにぎり・塩鮭・菜の漬物」だそうですが、本格的な学校給食は戦後になってからです。

終戦後は食糧不足が続いており、その頃の小学校6年生の体格は、今の4年生ぐらいだったようです。昭和21年に東京・神奈川・千葉で学校給食が開始され、それを記念して毎年学校給食週間(1月下旬)が設けられております。昭和22年には、甲府市でも学校給食が始まり、ユニセフから脱脂粉乳、アメリカからも小麦粉が提供されました。

当時の給食は、アルマイト製の食器で、パンを主食とし、鯨肉の竜田揚げや千切りキャベツなどを副食としたものでした。その後、学校給食への理解の深まりや保護者からの絶大な支持を得て、昭和29年に「学校給食法」が制定され、完全給食の素地が整い、急速な広がりを見ました。

学校給食は、栄養のある食事を提供し児童の健康増進と体力の向上を図るとともに、みんなを共にし、礼儀作法、友達との協力、更には食教育の推進を図っております。

現在、甲府市内の25小学校では統一献立を実施しております。給食週間には、特別食としてほうとうなどの郷土食が出される予定ですが、この機会に、食事の果たす役割について、心身の両面から考えさせていきたいと思ひます。



## 防犯ブザーの整備をお願いします

小学校入学時に、児童の通学途上の安全対策として、甲府市から防犯ブザーがすべての児童に配布されています。先日、全校児童を対象に防犯ブザーの整備状況を調査いたしました。その結果、電池が消耗しており、ブザーが鳴らない物が全体の1割程度あり、また、登下校時に携帯していない児童が全体の三分の一程度おりました。各クラスで防犯ブザーの有用性について指導しております。ご家庭においても、防犯ブザーの電池切れに注意するとともに、携帯するようご指導をお願い致します。

## 「ウサギとカメ」の寓話から～学校集会、校長の話～

皆さんは、昔話の「ウサギとカメ」を知っていますか。

ウサギとカメがかけっこの競争することになりました。ウサギは、足の遅いカメを馬鹿にして途中でサボってしまいます。結局、足の速いウサギが負けてしまうお話です。

なぜ、ウサギはカメに負けてしまったのでしょうか。

校長先生は2つ理由があると思います。

1つ目は、ウサギは、自分は足が速いから大丈夫と油断をしたから、結局は負けてしまったのだと思います。ウサギのように、自分は、出来るから少しぐらいサボっても平気だと思っている人は、目標を成し遂げることができません。カメのように歩みは遅くても、脇道にそれず、着実に真っ直ぐ進むことで、最終的に大きな成果を得ることができると思います。

2つ目は、ウサギは、競争しているときに、カメの様子を気にしながらゴールを目指していたと思います。カメはまだあんな所を歩いているから大丈夫だと。

一方、カメは、ウサギではなくゴール目指して歩いていたと思います。ウサギのように、人のことを気にしてばかりいる人はいませんか。校長先生は、カメのように決められらゴール（目標）をしっかり見て、努力してほしいと思います。

是非、自分の目標をしっかり見つめて、油断することなく、1日1日を大切に過ごしてください。

また、先程、認証状をお渡しした学級役員を中心に、学級の目標に向けて、みんなで力を合わせて、努力してください。



## ミレー作「落穂拾い」～学校集会、校長の話～

皆さんは、教育祭図画大会で、色々な思いを絵に表したことでしょう。この後、県特選、市入選、校内入選の方に賞状をお渡しします。

ここに有名な画家の絵があります。今から150年ほど前のフランス人画家ジャン・フランソワ・ミレーの描いた絵です。

3人の女の人が描かれていますね。何をしているのでしょうか。実は、この人たちは、畑で刈り入れをした時に落ちて散らばった、麦の穂を拾っているのです。でも、畑の持ち主ではありません。近所に住む方々です。昔のことです。近くで戦争があったり、伝染病がはやったりして生活に困る人もいました。村の人々は、そのことをよく知っていました。とんでもなく、収穫した麦を差し上げたら、無理をしてお返しをする方もいるかもしれません。そこで、村人が取った方法は、刈り取る時に散らばって落ちた穂をそのままにしておくことでした。やがて、それは人々の間に、「落ちた穂まで、すべて拾ってしまおうにはやめよう。作物をすべて収穫するのではなく、少し残しておこう」という教えとなりました。

これは、昔のよその国のことです。しかし、この人を思いやる気持ちは、今も昔もなく、国の違いもないと思います。この絵は「落穂拾い」という題の絵です。きっとミレーは温かい心の持ち主だったのでしょ。

実は、この絵の本物が山梨県立美術館に展示してあります。県立美術館には、ミレーの色々な絵を始め、多くの有名な絵が展示されています。機会がありましたら、ミレーを始め、一流の画家の作品を直接観てみてください。

また、県立美術館には、県特選に選ばれた甲府市内のお友達の作品も1月上旬（1月14日まで）に展示されます。

